

やっておきたい α6600

の設定 & 特徴

α6600は、APS-Cサイズの有効約2420万画素Exmor CMOSセンサーを搭載したデジタル一眼カメラ。画像処理エンジンBIONZ XやAIを活用したリアルタイムトラッキングによって、繊細な解像度と質感描写、素早く動く被写体もとらえる高速処理が、撮影の幅を広げる。まずは基本設定を試し、操作に慣れてきたらさまざまな機能をカスタマイズしてみよう。

【基本設定】

① 撮影モード

▶ P.26/P.66

被写体で使い分けられることができる撮影モード。カメラまかせの撮影モードから好みの設定で撮影できるモードまで自由に変更できる。

② フォーカスモード

▶ P.34

被写体やシーンに応じてピント合わせの方法を設定できる。動かない被写体にはAF-S、動く被写体にはAF-Cと覚えておこう。

③ フォーカスエリア

▶ P.36

ピントを合わせる位置の判断するのがフォーカスエリア。被写体の動きや画面を占める大きさによって設定を変更することができる。



④ ファイル形式

▶ P.16

RAWとJPEGの2種類に分けられ、JPEGは、エクストラファイン、ファイン、スタンダードの3種類から選択することができる。

⑤ ホワイトバランス

▶ P.114

被写体本来の色味を再現するのはもちろん、撮影意図によっては、カラーフィルターのように楽しんで撮影することもできる。

⑥ ISO感度

▶ P.76

常用ISO感度は静止画で100-32000を実現。夜の街並みや室内など、光量の少ないシーンでも、手持ちで撮影が可能だ。



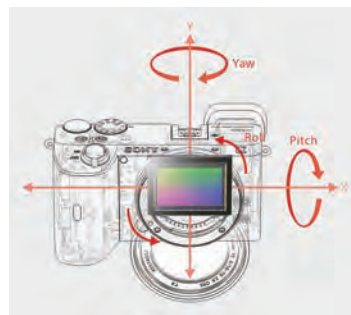
【グリップ】

α6600はグリップを深くすることで、ホールド性をさらに向上。望遠レンズ装着時でもグリップをしっかりホールドでき、安定した撮影をすることができる。



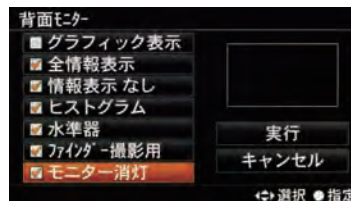
【Zバッテリー】

長時間撮影も可能となった高容量ZバッテリーをAPS-Cカメラで初採用。これまでよりもさらに長く、自由に撮影を楽しむことができる。



【手ブレ】▶ P.155

小型ボディはそのままにボディ内に手ブレ補正を搭載。マクロ撮影や手持ちでの撮影、望遠レンズ使用時のブレなどを低減させ、撮影に集中できる。



【モニター消灯】▶ P.157

再生時やメニュー操作時以外はモニターが消灯。星景撮影など、暗所でモニターの明るさが気になるシーンには便利だ。設定は背面モニターから行う。

01 α6600の各部名称を確認する

KEYWORD ▶ 各部名称

1 ボタンの配置と名称を覚える

α6600のボディには、たくさんの機能が搭載されている。使いこなすために、ボディに配置された**各ボタン**、**ダイヤル**の名称を把握しておこう。

【 前面・上面 】



- 1 ON/OFF(電源)スイッチ/シャッターボタン
- 2 赤外線リモコン受光部
- 3 Wi-Fi/Bluetoothアンテナ(内蔵)
- 4 セルフタイマーランプ/AF補助光発光部
- 5 レンズ取りはずしボタン
- 6 内蔵マイク
- 7 マウント標点
- 8 イメージセンサー

- 9 マウント
- 10 レンズ信号接点
- 11 $\odot$ イメージセンサー位置表示
- 12 マルチインターフェースシュー
- 13 スピーカー
- 14 モードダイヤル
- 15 コントロールダイヤル
- 16 C1(カスタム1) ボタン
- 17 C2(カスタム2) ボタン

【 背面 】



- 18 モニター
- 19 アイピースカップ
- 20 ファインダー
- 21 アイセンサー
- 22 視度調整ダイヤル
- 23 MENU(メニュー) ボタン
- 24 C3(カスタム3) ボタン
- 25 AF/MF/AEL切替レバー
- 26 撮影時: AF/MFボタン、AELボタン
再生時: $\oplus$ (拡大) ボタン

- 27 MOVIE(動画) ボタン
- 28 撮影時: Fn(ファンクション) ボタン
再生時: $\square$ (スマートフォン転送) ボタン
- 29 コントロールホイール
- 30 中央ボタン
- 31 撮影時: C4(カスタム4) ボタン
再生時: $\square$ (削除) ボタン
- 32 $\blacktriangleright$ (再生) ボタン

【 側面 】



- 33 ショルダーストラップ取り付け部
- 34 マルチ/マイクロUSB端子
- 35 充電ランプ
- 36 HDMIマイクロ端子
- 37 μ (マイク) 端子
- 38 $\cup$ (ヘッドホン) 端子
- 39 $\mathcal{N}$ (Nマーク)

【 底面 】



- 40 バッテリーロックレバー
- 41 バッテリー挿入口
- 42 メモリーカード挿入口
- 43 バッテリー/メモリーカードカバー
- 44 三脚用ネジ穴

04 ファインダーの
使い方を覚える

KEYWORD ● ファインダー ● 視野率

1 ファインダー表示を確認する

α6600は、約236万ドットの有機ELファインダー「XGA OLED Tru-Finder(トゥルーファインダー)」を搭載している。高解像度、高コントラストで階調表現や色再現性に優れ、クリアで見やすい映像が表示される。また、ファインダーには、上下に**撮影時の設定がアイコンなどによって表示**されるので、それぞれが何を表しているのかを把握しておく、ひと目で情報を確認することができる。



- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| ① 撮影モード | ⑦ 動画のフレームレート/記録設定(▶P.140) |
| ② メモリーカード(▶P.15)/撮影可能枚数 | ⑧ バッテリー容量 |
| ③ 静止画の画像横縦比(▶P.154) | ⑨ シャッタースピード(▶P.70) |
| ④ 静止画の画像サイズ(▶P.17) | ⑩ 絞り値(F値)(▶P.68) |
| ⑤ 静止画の画質(▶P.16) | ⑪ 露出補正(▶P.64) |
| ⑥ 動画の記録方式(▶P.140) | ⑫ ISO感度(▶P.76) |

2 ファインダー撮影のメリット

ファインダー撮影で魅力的なのは、屋外でも屋内でも、外部の光を遮断し、**撮影に集中できる環境をつくってくれる**ことだ。写真に写る範囲のみを確認しながら撮影できるため、動く被写体などに対しても重宝する。**視野率も100%**なので、余計なものが写る心配もない。



ファインダーで撮影する際は、カメラと同梱されているアイピースカップを取り付けておこう。



ファインダーに目を押し当てて撮影すると、カメラが安定して、手ブレも生じにくい。設定もファインダーを覗いたまま変更可能だ。

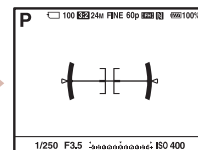


ファインダー内の表示が見えにくいときは、ファインダー横に付いている視度調整ダイヤルを回して調節することができる。

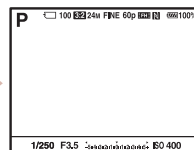
3 ファインダー表示を変える

撮影時のファインダー表示は**3種類**あり、ファインダーを覗きながら**コントロールホイールの▲(DISPボタン)**を押すたびに**切り換わる**。水準器は被写体の水平・垂直を確認して撮影したいとき、ヒストグラムはその場所の明るさやコントラストの強弱を確認したいときに便利だ。

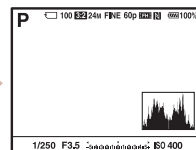
【水準器】



【情報表示なし】



【ヒストグラム】



16 リアルタイム瞳AFを設定する

KEYWORD ● リアルタイム瞳AF ● フォーカスホールドボタン

1 シャッターボタン半押しでリアルタイム瞳AFを使う

フォーカスモードを**AF-S**にして、[1(撮影設定1)]→[顔/瞳AF設定]→[AF時の顔/瞳優先]を[入]にする。さらに、[検出対象]を[人物]にすることで、シャッターを半押しにしたときにリアルタイム瞳AFが連動するようになっている。モデルの顔に向けてシャッターボタンを半押ししたら**緑の枠**が出てくる。この枠が目位置に出たら、瞳にフォーカスが合ったという合図だ。

【設定方法】



リアルタイム瞳AFの設定を行い、構図や露出を決めたらシャッターボタンを半押しする。



瞳に小さな緑色の枠が表示される。あとはシャッターボタンを全押しすれば撮影完了だ。

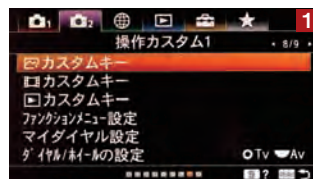


このときは、モデルまでの距離やカメラの高さなどいろいろと変えて撮影したが、リアルタイム瞳AFはほぼ100%の成功率だった。リアルタイム瞳AFはポートレートの撮影ではぜひとも活用したい。

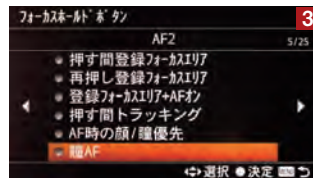
2 リアルタイム瞳AFをボタンに割り当てる

カメラ位置からモデルの顔が一定以上の大きさで写る場合、ポートレートの撮影では**リアルタイム瞳AF**を使ってピント合わせをするのが効果的だ。いつでも使えるように、リアルタイム瞳AFを**自分が使いやすいボタンに割り当てる**ことをおすすめする。 $\alpha 6600$ のリアルタイム瞳AFは精度がとても優れているので、ポートレート撮影ではぜひとも使って欲しい機能だ。

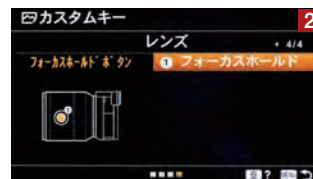
【設定方法】



[2(撮影設定2)]から[カスタムキー]を選択する。



[瞳AF]に設定する。



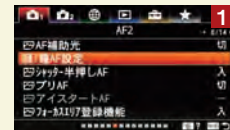
割り当てたい希望のボタンを選ぶ(ここでは[フォーカスホールド]に設定)。



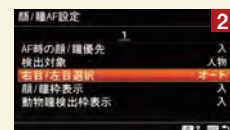
レンズのフォーカスホールドボタンを押すと、リアルタイム瞳AFが働く。

Check ① Point ピントを合わせたい瞳を決める

リアルタイム瞳AFはフォーカスモードの設定に関わらず、シャッターボタンを半押しするとカメラに近い瞳に自動でピントを合わせ続ける。ただ、ピントを合わせたい瞳が決まっている場合、自動のままだとその瞳にピントが合わないこともある。そこで「右目/左目選択」でピントを合わせたい瞳を設定しておくことをおすすめする。また、カスタムボタンに登録しておけば、登録したボタンを押すたびにピントを合わせたい瞳を変えることができる。



[1(撮影設定1)]から[顔/瞳AF設定]を選択する。



「右目/左目選択」を選択し、ピントを合わせたい瞳を選択する。

24 シャッタースピード優先 AE (S) で撮影する

KEYWORD ● Sモード ● 高速シャッター ● 低速シャッター

1 シャッタースピードをコントロールするSモード

α6600のモードダイヤルをシャッター優先AE (S) にすると、**撮影者がシャッタースピードを決定できる**。シャッタースピードのみ自分で設定し、あとはオート(自動露出)で撮影が可能だ。多彩な表現をするには絞りだけでなく、シャッタースピードも使い分けてみよう。瞬間を写しとめたい場合は**高速シャッター**で、時間の経過を伝えたいときなどは**低速シャッター**で撮るといい。低速シャッターで撮る場合は、三脚の使用がマストとなる。

【設定方法】



モードダイヤルをS(シャッタースピードAE)に合わせる。



シャッタースピード優先の画面が表示される。



コントロールダイヤルを回すとシャッタースピードが変更され、絞り値はシャッタースピードに合わせて自動で設定される。



2 高速シャッターの表現

シャッタースピードを速くすることで、**動いているものを写し止めることができる**。被写体が動くスピード、レンズの焦点距離、カメラ位置から被写体までの距離などを総合的に判断してシャッタースピードを決定する。筆者の場合は、**高速シャッターは1/1000秒**を軸に前記の要素を考慮して、速くしたり遅くしたりして決定している。

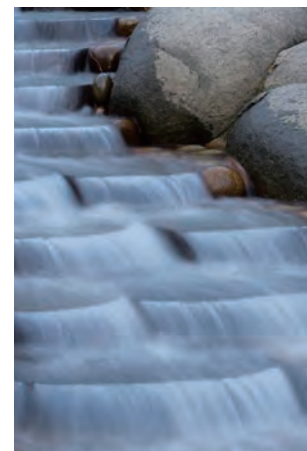


DATA	
レンズ	E 70-350mm F4.5-6.3 G OSS
モード	S 絞り F6.3
シャッター	1/2000秒
ISO	500 露出補正 +0.3
WB	オート
焦点距離	350mm

飛んでいるマナヅルを1/2000秒の高速シャッターで写し止めた。このシーンでマナヅルが飛ぶスピードとマナヅルまでの距離を考慮すると、1/1000秒でも十分止まるが、確実に止めるために1/2000秒とした。

3 低速シャッターの表現

1/8秒や1/4秒、場合によっては数秒間もシャッターを開けっぱなしにするので、低速シャッターで撮る場合は**三脚**の使用がマストとなる。三脚使用時は誤反応を防ぐため、**手ブレ補正はオフ**にしてセルフタイマーやリモートコマンダーなどを使ってシャッターを切るようにしよう。シャッターボタンを手押しすると、その振動でぶれる場合がある。



DATA	
レンズ	E 18-135mm F3.5-5.6 OSS
モード	S 絞り F16
シャッター	1秒
ISO	100 露出補正 +0.7
WB	オート
焦点距離	84mm

上から下へ水が流れていく時間の経過を表現したかったので、シャッタースピードを遅くして撮影。水が流れるスピードとレンズの焦点距離、カメラ位置から水までの距離を考慮して、1秒とした。

39 FE 90mm F2.8 Macro G OSS ～マクロレンズ～

KEYWORD ▶

1 FE 90mm F2.8 Macro G OSSを使う

マクロレンズらしいとろけるような**ぼけ味が魅力**で、とろとろのボケは病みつきになるほどだ。ピントを合わせた位置はキリリとシャープに像を結び、解像力も高い。マクロというどうしても近接撮影になりがちだが、**少し離れた距離で撮影しても周辺までクリアに描写できる**ので、中望遠レンズとしても活用できる。ナノARコーティングを採用していることで、**フレア・ゴースト**を抑えたヌケのよい高画質を実現する。



FE 90mm F2.8 Macro G OSS

焦点距離（35mm判換算）：90mm（135mm相当）
開放絞り：F2.8
レンズ構成枚数：11群15枚
フィルター径：φ62mm
最短撮影距離：0.28m
希望小売価格：148,000円（税別）



箸でつまみ上げたギョーザにピントを合わせ、絞りは開放のF2.8にして、背景を大きくぼかした。近年、ボケが硬いレンズが目につくようになったが、このレンズのボケは滑らかで、本当に美しい。

DATA

レンズ	FE 90mm F2.8 Macro G OSS	モード	M
絞り	F2.8	シャッター	1/50秒
露出補正	+0.7	WB	オート
		焦点距離	90mm

写真を見る人に柔らかなイメージを伝えたかったので、絞りを開放のF2.8にして撮影。フォーカスポイントがシャープであるからこそ、滑らかなボケもいっそう引き立つ。

DATA

レンズ	FE 90mm F2.8 Macro G OSS
モード	M
絞り	F2.8
シャッター	1/30秒
ISO	1250
WB	オート
露出補正	0
焦点距離	90mm



主役を大胆に右手前に寄せ、脇役のカップを左奥に配置して、対角線を活用した。ボケが滑らかであるがゆえに、画面からスイーツが浮かび上がってくるような描写になった。

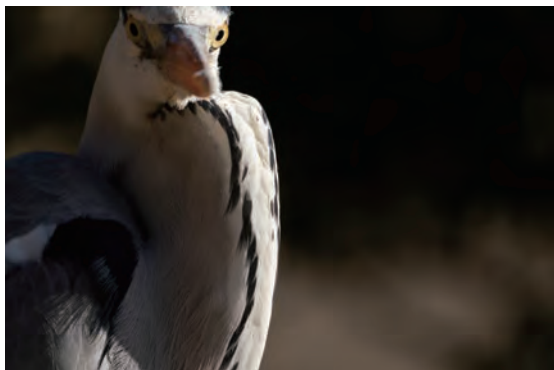
DATA

レンズ	FE 90mm F2.8 Macro G OSS	モード	M
絞り	F2.8	シャッター	1/40秒
露出補正	0	WB	オート
		焦点距離	90mm

Check ① Point 滑らかなボケが美しいレンズ

このレンズはボケが滑らかで美しいので、絞り開放を積極的に使っていくことをおすすめする。また、撮影距離にかかわらず、描写が素晴らしいので、少し離れたところから狙ってみるのもいい。ブレに細心の注意を払って撮影すれば、最高の結果が得られるレンズだ。

ソニーレンズのシャープな描写や美しいボケ、高い解像力を活かした作品群。広角から望遠までのレンズを鳥、ポートレート、夜景の被写体に合わせて撮影した。



アオサギをはみ出し構図にして、迫感を表現した。ぎゅうくつな印象にならないように、横位置にして右側に大きくスペースを確保している。

DATA

レンズ E 70-350mm F4.5-6.3 G OSS モード M 絞り F6.3
シャッター 1/1000秒 ISO 400 露出補正 -1 WB オート 焦点距離 350mm



画面左手前から奥へ曲線が流れていくようなイメージで画面を構成して奥行きを出した。ジョウビタキが一番いい表情になった瞬間にシャッターを切った。

DATA

レンズ FE 35mm F1.8 モード M 絞り F4
シャッター 1/1000秒 ISO 125 露出補正 +0.3 WB オート 焦点距離 35mm



ジョウビタキが来る前に背景がグリーンになる位置にカメラをポジショニング。やってきた後、シャッターを切った。絞りはF8まで絞っているが、背景が遠いのできれいにぼけている。

DATA

レンズ E 18-135mm F3.5-5.6 OSS モード M 絞り F8
シャッター 1/640秒 ISO 400 露出補正 0 WB オート 焦点距離 103mm



人を怖がらないユリカモメがいたので、寄りで足をクローズアップして撮影。E 70-350mm F4.5-6.3 G OSSはまるで鱗のような模様が克明に描写してくれた。

DATA

レンズ E 70-350mm F4.5-6.3 G OSS モード M 絞り F8
シャッター 1/800秒 ISO 1000 露出補正 -0.3 WB オート 焦点距離 350mm

43 クリエイティブスタイルで
雰囲気を変える

KEYWORD ● クリエイティブスタイル ● コントラスト ● 彩度 ● シャープネス

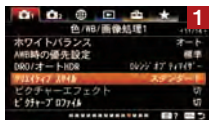
1 クリエイティブスタイルとは

クリエイティブスタイルとは、写真の**コントラスト**や**彩度**などをカメラが調整してくれる機能のことで、α6600では**13種類**用意されている。写真を見る人に何を伝えたいのかによって、最適なクリエイティブスタイルを選ぼう。JPEGで撮影する人は、クリエイティブスタイルをいろいろ変えて撮影することをおすすめする。

【クリエイティブスタイルの種類】

Std スタンダード	初期設定のクリエイティブスタイルでさまざまなシーンに対応可能。
Vivid ビビッド	彩度とコントラストが高くなり、色彩豊かな印象に仕上げる。
Nrtr ニュートラル	彩度とシャープネスが低くなり、落ち着いた色味になる。パソコンでの画像加工に適している。
Clear クリア	ハイライト部分の抜けがよくなり、透明感が増す。
Deep ディープ	濃く深みのある色味になり、重厚感が増す。
Light ライト	明るく軽い発色になり、爽快感のある色再現に仕上げる。
Port ポートレート	肌を柔らかく、ナチュラルに再現してくれる。
Land 風景	彩度、コントラスト、シャープネスが高くなり、鮮やかでメリハリが出る。
Sunset 夕景	夕焼けの赤味のある雰囲気をそのまま再現してくれる。
Night 夜景	コントラストがやや低くなり、見た目に近い夜景に写る。
Autu 紅葉	紅葉の赤色、黄色をより鮮やかに美しく表現してくれる。
B/W 白黒	白黒のモノトーンで表現される。
Sepia セピア	セピア色のモノトーンで表現され、昔の写真の雰囲気に仕上げる。
[Std] お好みの設定を登録する(スタイルボックス)	任意の内容を登録でき、設定を呼び出せる。

【設定方法】



【カメラ(撮影設定1)】から
【クリエイティブスタイル】
を選択する。



希望のクリエイティブスタイルを選択し、コントロールホイールの中央ボタンを押す。

2 13種類のスタイルの効果と使いどころ

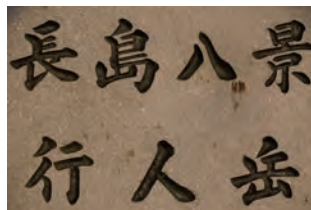
13種類あるクリエイティブスタイルだが、**被写体との相性や撮影者の好み**などもある。まずは、いろいろな被写体をクリエイティブスタイルを変えてたくさん撮影することをおすすめする。慣れてくると、それぞれのクリエイティブスタイルの特徴が把握できるようになる。慣れるまで設定を変えて撮影しよう。

【スタンダード】



迷ったときはスタンダードで撮影するとよい。癖のないバランスが取れた仕上がりになる。

【ニュートラル】



彩度が不高いので、落ち着いた仕上がりになる。事実を淡々と述べる写真などに最適。

【ディープ】



濃くて暗い仕上がりになるので、筆者は重厚感を表現したいときに選択している。

【ビビッド】



言葉通り、鮮やかな色味になり、コントラストも強い。色彩を強調したいときに向く。

【クリア】



ハイライトの抜けが良好になるので、水面に太陽が反射したときなどに最適。

【ライト】



発色が明るい仕上がりになるので、ライトでポップなイメージを伝えたいときに向く。

53 スロー&クイックモーション 動画を撮る

KEYWORD ● スロー&クイックモーション ● フレームレート

1 スロー&クイックモーションで撮る

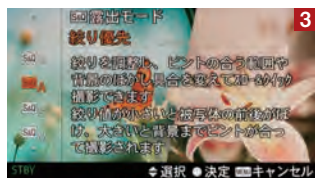
モードダイヤルをS&Qに合わせると、スローモーションとクイックモーションの撮影が可能なモード「**スロー&クイックモーション**」になる。フレームレートは1fpsから120fpsまで8段階あり、最大で**60倍までのクイックモーション**と**最大5倍までのスローモーション**をフルHDで記録できる。露出モードではP/S/A/Mモードから選択が可能だ。

【設定方法】



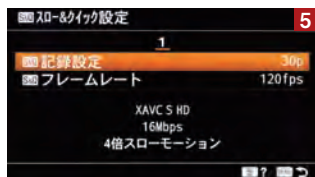
1

モードダイヤルを**S&Q**(スロー&クイックモーション)に合わせる。



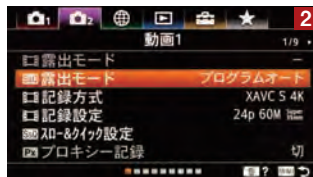
3

希望の露出モードを選択する。



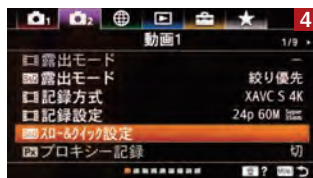
5

【S&Q記録設定】と【S&Qフレームレート】を設定する。



2

【2(撮影設定2)]から【S&Q露出モード】を選択する。



4

【2(撮影設定2)]から【S&Qスロー&クイックモーション設定】を選択する。



6

MOVIE(動画) ボタンを押して、撮影を開始する。

2 フレームレートと再生速度

フレームレートとは1秒間を何枚に区切って保存しているかをいう。例えば、1秒間を120枚に区切って撮影していれば120fpsで、30枚に区切って撮影していれば30fpsとなる。再生時は通常、30コマが一般的なので、それよりも**枚数が多ければスローモーション**になり、**少なければクイックモーション**になる。

【再生速度】

フレームレート	記録設定		
	24p	30p	60p
120fps	5倍スロー	4倍スロー	—
60fps	2.5倍スロー	2倍スロー	通常の再生速度
30fps	1.25倍スロー	通常の再生速度	2倍スロー
15fps	1.6倍クイック	2倍クイック	4倍クイック
8fps	3倍クイック	3.75倍クイック	7.5倍クイック
4fps	6倍クイック	7.5倍クイック	15倍クイック
2fps	12倍クイック	15倍クイック	30倍クイック
1fps	24倍クイック	30倍クイック	60倍クイック



フレームレートを120fpsにして撮影。4倍のスローモーションになり、車の動きがリアルスピードよりもゆっくりと再生される。

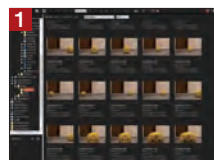
73 タイムラプス動画をつくる

KEYWORD ▶ Imaging Edge Desktop ▶ PlayMemories Home ▶ インターバル撮影 ▶ タイムラプス動画

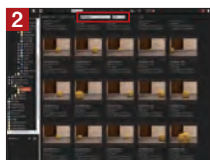
1 タイムラプス動画に使う画像を選択する

α6600では、インターバル撮影した画像から**タイムラプス動画**を作成することができます。作成するには事前に、パソコン用ソフトウェアImaging Edge DesktopとPlayMemories Homeをインストールする必要があります。動画には**15枚以上の画像が必要**で、使用できるのは**JPEG画像のみ**。RAW画像を選択した場合は、[タイムラプス動画の作成]から[出力方法]で[各RAWファイルの設定を適用]を選択すると、JPEG画像に変換される。高画素で撮影すれば4K動画制作も可能だ。

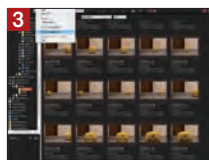
【選択方法】



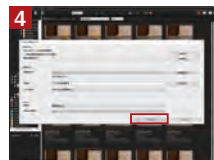
Imaging Edge Desktopの[Viewer]を起動する。



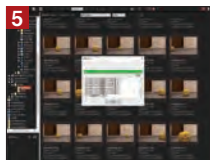
画面右上の[サムネイル表示]とファイル形式等を選択し、表示させる画像を絞り込み、画像を15枚以上セレクトする。



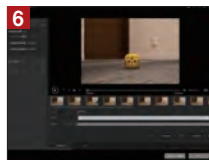
ツールバーの[ツール]から[タイムラプス動画の作成]をクリックする。



希望の[出力方法]、[保存方法]、[トリミング]を設定し、[次へ]をクリックする。



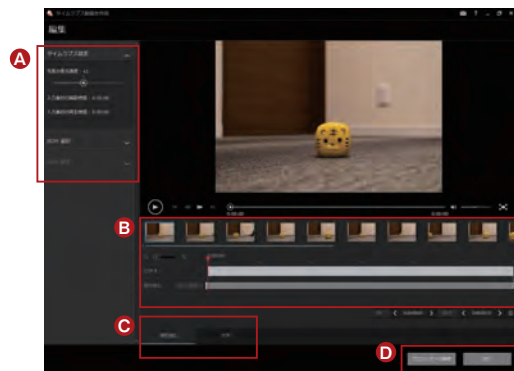
現像出力が100.0%になったら、[次へ]をクリックする。



画像選択が完了すると、自動的にPlayMemories Homeが立ち上がり、タイムラプス動画の編集画面が起動する。

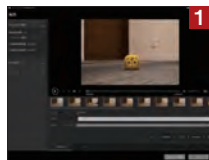
2 タイムラプス動画を編集する

Imaging Edge DesktopのViewerで選択した画像を、PlayMemories Homeで動画編集することができる。**BGM**を入れたり、**スローや早回し**、**文字の追加**など、オリジナルの動画を作成することが可能だ。また、作成した動画は、PlayMemories OnlineやYouTubeにそのままアップすることもできる。

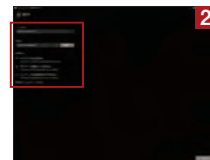


- | | |
|--------------------|--|
| A タイムラプス設定 | 作成するタイムラプス動画のフレームレートを選択できる。動画に挿入するBGMを選択、調整をする。 |
| B タイムライン | 結合する写真のサムネイルが表示され、左から右の順で結合される。動画にエフェクトをかけるときは、下段のタイムラインで調整する。 |
| C エフェクト | スローや早回し、文字の追加などのエフェクトを追加できる。 |
| D プロジェクトの保存 | 編集中のプロジェクトを保存できる。 |

【保存方法】



編集画面で動画の編集を行い、編集が完了したら[次へ]をクリックする。



希望の[ファイル名]、[保存先]、[保存形式]を設定し、[保存]をクリックする。



プレビュー画面が表示される。[閉じる]をクリックすると終了する。